

「より深め、より開き、より据える」 ～前へ 私たちの未来に繋げて～

第5回社員総会開催される



2月27日(木) 今年度のまとめとなる第5回社員総会が行われました。令和6年度諏訪教育会事業報告の発表が行われた後に、議事を行い「令和7年度諏訪教育会事業計画」「令和7年度収支予算書」が承認されました。

櫻井 洋 会長のあいさつより



令和6年度の教育会テーマは、「前へ 私たちの未来へ繋げて」でした。教育会とは、私たちの「自由と自主の拠り所」であると思います。そして、教育会は未来を担う先生方の人材育成の場所でもあると思います。人材育成に必要なことは、多くの人と繋がること、そして学校以外の仕事を体験することだと思います。これは用意された「研修」では得られない体験です。

最近の世の中の風潮で、コスパ・タイプが重視される今、逆に教育会は必要であると思います。もし教育会が無くなれば、とりかえしのつかない「何か大切なもの」が私たちから永遠に失われることとなります。「教育会の意味や意義」について、校長会・定期総集会・社員総会・会報等を通じ先生方へ発信し共感を得ることが必要だと思います。

定期総集会の会長挨拶にもその願いを込めました。6分という与えられた時間の中で、「時候の挨拶」と「形式的な話」を排し、自分の思いを自分の言葉で述べさせていただきました。「会員の声教育会に届き、教育会が変わった」と実感してもらうことが必要です。この2年間で、61歳以上の会費を5000円とする改訂、定期総集会の分散型研修の復活、バスケ大会の11月開催・「諏訪の子どもや教育を語る会」の平日開催、会誌「諏訪教育」の年1回発刊の方向づけ、みずうみ、やまなみの統合の方向づけ・教研集会の平日開催等を会員の声を背景に行うことができました。社員の先生方、今後も是非教育会の存在意義を一緒に考えてください。そして各校の会員増についてお力を貸してください。本日は、よろしく申し上げます。

各部の報告より 「事業報告書」をご覧ください。

協議より 社員の皆さんより諏訪教育会事業運営への意見・要望をいただきました。

☆ 委員会活動

本校にも委員会活動に力を入れている先生が3名います。若い先生からベテランの先生まで、委員会活動の中で各教科の研究を進めています。情報教育委員会では、数学の授業を行いました。情報は数学と繋がりが無いと思いがちですが、プログラミング的思考で連立方程式を解くという、大変面白い試みでした。音楽委員会の先生は、学校に音楽科の先生が一人しかいないので、いろいろな先生に相談できる委員会活動は大変役立つと言っていました。また、委員の先生だけでなく、他の先生も参考になることが多いです。今後もさらに、委員会活動が活発になって欲しいです。

☆ 諏訪の子どもや教育を語る会・研修

諏訪の子どもや教育を語る会について述べさせていただきます。平日開催になって、PTAとして参加された方より、昨年より時間は短かったが先生方よりたくさんの情報をいただいて一緒に考えることができたという感想をいただきました。休日をつぶさずにすむので、参加しやすくなったという意見もありました。次に研修についての意見です。若い先生は研修がどのようなものか知らなかったのですが、ベテランの先生にアドバイスを受け大変参考になったそうです。また研修後も、「どうだった？」と声をかけられ、職場の雰囲気良くなりました。こうした研修の機会を、これからも大切にしたいです。



教職員バスケットボール大会

教職員バスケットボール大会について発言します。今年度、大会が2月から11月になったのは大変良いことだと思います。厳冬期は怪我が心配でしたが、11月なら安心して取り組みます。また応援の先生も寒くなくて良かったと言っていました。組合のバレー大会が8月なので、練習も継続して行うことができました。また2月は進路事務で忙しいですが、11月開催になり、大変ありがたかったです。今後も11月開催のバスケ大会で、他校の先生方と親交を深めていきたいです。

【櫻井会長のまとめ】

ありがとうございました。先生方の発表を聞いて、諏訪教育会を自分たちのために活用している姿があって嬉しく思います。また、会員の声から「課題」もあることもわかりました。そこも大切に今後の教育会活動を頑張っていきたいと思えます。最後になりますが、議長の高橋社員、副議長の阿部社員、一年間ありがとうございました。

正副議長をお務めいただいた高橋あゆ美社員（上諏訪中）、阿部恵二社員（金沢小）のお二人には、一年間に渡って大変お世話になりました。ありがとうございました。

小口かおり副会長のあいさつより

世の中にはたくさんの組織がありますが、自分の力で変えられる組織は少ないです。そんな中、諏訪教育会は自分の力で変えることができる柔軟な組織でありたいと活動してきました。しかし、組織は私たちが変えようと思っても、根柢がなくては変えられません。今日のように、要望や反省があってこそ変えられるのです。私たちが変わっていくために、新しい提案を出していただくことは大変ありがたいことです。今後も諏訪教育会が「つながり」のある場であることを願っています。一年間、ありがとうございました。

特別企画！「諏訪史第1巻」刊行100周年 記念展

諏訪の考古学についてまとめた諏訪史第1巻は、信濃教育会諏訪部会(現諏訪教育会)により1924(大正13)年12月25日に発刊されました。当時の日本を代表する人類学者・考古学者である鳥居龍蔵先生を招聘し、諏訪の教員や考古学愛好家とともに綿密な調査を行い、約七年の歳月をかけて完成した「諏訪史」は当時としては画期的な書籍であり、後の全国各地の郷土史誌作成の参考とされました。

100年前に諏訪教育会が取り組んだ、この一大事業を振り返る特別企画として、諏訪の6市町村と諏訪教育会が連携し、記念展を開催しています。

諏訪教育会の事業について知ることのできるまたない機会ですし、諏訪教育会の先人の思いに触れたり、諏訪の太古の歴史に思いを馳せたり、様々な楽しみ方が諏訪教育博物館をはじめ、各市町村の7館が連携して提供されています。プレゼントが用意されているスタンプラリーも行われています。ぜひ、春休みに足を運んでみてはいかがでしょうか。



諏訪郡内7館合同企画 協力：諏訪考古学研究会

- 諏訪教育博物館 「諏訪史第一巻」から歴史ハンドブックへ
- 星ヶ塔ミュージアム矢の根や 旧石器時代観
- 井戸尻考古館 縄文時代観1
- 八ヶ岳美術館 原村歴史民俗資料館 縄文時代観2・原始芸術観
- 市立岡谷美術考古館 弥生時代観
- 茅野市尖石縄文考古館 「尖石」の誕生
- 諏訪市博物館 「古墳時代観



こちらもぜひ！

今、教育博物館では「リバイバル展」として、「校歌と学校教育」「各校の校章の意味とその由来」の「小学校編」の展示を、記念展と併せて行っております。

知っているようで知らない「校章」の意味や由来に触れられるよい機会です。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

